

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	68.3	67.0	50.1	65.0
	(1.04)	(0.99)	(1.00)	(1.07)
R 5 正答率の全国比		1.00		1.04

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○現 6 年生

- ・国語・算数共に全国とほぼ同程度の正答率であった。また、無回答率が低く、途中であきらめることなく最後まで回答しようとしていくことができていた。
- ・国語では、話の内容の中心をとらえることや、複数の資料から必要なことを読み取って考えをまとめることに課題が見られた。
- ・算数では、知識・技能に関する問題は正答率が高いが、記述式の問題で無回答率が増え、自分の考えを表現することに苦手意識を持つ児童がいる。
- ・意識調査では、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対して、全国 76.5%に比べ 88.9%の児童が楽しいとこたえ、学び合いや話し合い活動の良さを感じ取っているものと思われる。読書については、好きな児童は 81.5%と多いが、文章を読むことに慣れたり、習慣化したりすることが大切になるものと思われる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を設定した基本的な学習の流れを大切にし、児童にとって見通しのある分かりやすい授業を行うことで、児童が主体的に学習に取り組むような授業を実践する。
- ・1 人 1 台学習用端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実践した授業改善を行っていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・誤答が多い過去の問題に取り組む機会を定期的にとり、問題文の読み取り方や条件に応じた記述の仕方に慣れさせる。
- ・定期的に本の紹介をして読書の意欲を高めたり、本を読む機会をより多く設定し文章を読むことに慣れさせたりする。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	63.5	66	48.1	62
	(0.97)	(0.97)	(0.96)	(1.02)
R 5 正答率の全国比		0.98		0.99

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・全体の正答率は県平均を下回っている。
- ・学習指導要領の内容別では、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」において、それぞれ県平均を 0.2 ポイント上回っているが、「書くこと」においては 3.4 ポイント下回っている。
- ・問題形式では、短答式において県平均を 6.7 ポイント下回っている。
- ・県平均より無解答率の高い問題が多い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は県平均を 1 ポイント上回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、全ての領域において県平均を上回っている。
- ・「複数の棒グラフを読み取り違いを記述する問題」において無解答率が高い。

【意識調査】

- ・「5 年生までに受けた授業でのタブレットの使用頻度」について、「週 3 回以上使用した」と答えた児童の割合は 60.3%で、県平均を 19.1 ポイント上回っている。
- ・「月曜日から金曜日までの 1 日あたりの勉強時間」について「30 分より少ない」と答えた児童の割合は 21.7%で、県平均を 5.7 ポイント上回っているが、令和 4 年度調査結果との比較では 6.7 ポイント改善している。
- ・「土曜日や日曜日の 1 日あたりの勉強時間」について「1 時間より少ない」と答えた児童の割合は 45.2%で、県平均を 5 ポイント下回っており、令和 4 年度調査結果との比較でも 11.7 ポイント改善している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・学力向上対策評価シートの共通実践では、「教育の質の向上に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実」を設定している。校内研究を活用し、学力向上に向けて全職員で授業改善に取り組む。
- ・自分の考えをもとに、友達や教師と学び合う時間をもち、主体的・対話的な学びを促す発問や働きかけの工夫を取り入れた授業づくりを行う。
- ・端末の活用を取り入れた予習学習など目的を明確にした家庭学習や一人学びの手立てを行い、児童の主体性を引き出す。
- ・端末を利用した授業内容と家庭学習の内容を連動させることで、学校と家庭での学びの連続性を図り、基礎学力の定着を図りたい。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習の時間が県や全国よりも短いことから、家庭での計画的な時間の使い方や家庭学習への取り組みせ方にも工夫をする必要がある。
- ・スマホやタブレットなどの ICT 機器との付き合い方について、情報安全教室や道徳、総合的な学習など保護者との連携を密にしながら取り組んでいく必要がある。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(12 月)	(4 月)	(12 月)	(4 月)
	66.8	69.0	47.2	60.0
	(1.02)	(1.01)	(0.94)	(0.98)
R 5 正答率の全国比		1.03		0.96

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語は、12 月調査で県平均を上回り、4 月調査でも県平均・全国平均ともに上回り、5 年時から着実に力をつけている。算数は、12 月調査・4 月調査ともに県や全国の平均をやや下回っている。
- ・国語は、内容別では話すこと・聞くことの領域がよくできていた。条件作文等、苦手としていた問題も書ける児童が増えた。問題形式では選択式、短答式、記述式ともに県や全国との差異はない。
- ・算数は、領域別ではデータの活用がよくできており、変化と関係が落ちている。問題形式では選択式、短答式、記述式ともに県や全国にやや及ばない。解答の速さを身に付けることも必要と思われる。
- ・県や全国と比較して、家庭学習の時間が短いという結果が出た。長時間短時間の二極化の傾向にある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・算数は、時数の差はあるが全学年にわたって T T による授業を実施している。担任と加配教員が話し合いのもと T1 や T2 を担ってきめ細やかな指導をし、教材作成や休み時間の個別支援を分担する。
- ・夏季休業中に、職員研修で講師を招聘して今年度の 5 年県学状、6 年全国学状を分析する機会をもった。全職員で分析し、考察し、手立てを考え、9 月以降その成果を活かせるよう日々努めている。
- ・若手教員が多いが、校内研究、市教研、初任研等の機会を逃さず、研修を積んでいる。全体や低中高特支 G での教材研究に励み、UD の視点や I C T 利活用を取り入れた指導方法を日々模索している。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の全校一斉の「立腰」、授業のはじめと終わりの「立腰」を日々の生活に位置付け、落ち着いて学習に臨む態度を育てる。
- ・毎月「筆箱チェック週間」を設定し、基本的学習習慣の定着の一助とする。
- ・市の取組である「花まるタイム(音読 図形 視写 計算)」を火・木・金の朝の 15 分間に位置付け、級外も共に指導し、学力向上の一端を担う。9 月以降は保護者や地域の方も参加してもらっている。
- ・主体的に学ぶ力の育成を目指して、3 年以上に「自主学習ノート」を書かせ、級外が点検を担当する。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	72.4	76.0	69.7	67.0
	(1.11)	(1.12)	(1.39)	(1.10)
R 5 正答率の全国比		1.13		1.07

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語では、ほとどの領域でも県平均・全国平均と同等か上回る結果であったが、記述問題で県や全国と比べて下回っている問題もあった。
- ・算数においては、全ての領域で県・全国の平均と同等か上回る良い結果が出ていた。
- ・若干、学力に個人差があり、特に算数では 2 極化の傾向が見られる。
- ・意識調査から、将来の夢や目標を持てていない児童が県や全国と比べて多いことがわかった。また、国語の学習に対して積極的に取り組めていない児童の割合も多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・国語の授業づくりを見直し、児童が意欲的に取り組めるように工夫する。
- ・記述式の問題や思考を要する問題に対して、自分の考えをしっかりとち、発表したり書いたりすることができるような習慣づけを行っていく。
- ・個別指導が必要な児童については、今後も配慮をしながら指導を行っていく。
- ・「志を高める授業」には講師を招き、児童が夢や目標をもち、学ぶ意欲が高まるような手立てをとる。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・将来についての夢や目標を持たせる指導を工夫し、学習に対して意欲的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする姿勢へとつなげていく。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	68.4	70.0	45.7	60.0
	(1.05)	(1.03)	(0.91)	(0.98)
R 5 正答率の全国比		1.04		0.96

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

- ・国語は、思考、判断、表現の内容において「話すこと・聞くこと」と「読むこと」は全国・県平均より高くなっているが、書くことについては 10 ポイント以上低くなっており課題がある。
- ・算数は、5 年時～6 年時の推移で見ると、県との差は縮まってきている。
- ・図表やグラフ等を用いて自分の考えを表す力をつける必要がある。

【意識調査】

- ・家庭学習の時間は、県平均とほぼ同等とみることができると考える。家庭での読書時間に課題がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・記述式の問題に取り組む時間をつくり、自分の考えを図表やグラフを用いて分かりやすく伝える学習を多く設定する。
- ・文章問題に取り組ませる時間を確保し、児童のつまづきを見取る時間を確保していく。
- ・友だちの良い考えに触れたり、学んだことからさらに考えを深めたりするために、振り返りを重点的に行う「わがとも月間」を実施する。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習を充実させるため、自主学習を勧めている。全校で自主学習コンテストを行ったり、自主学習週間を設定したりして家庭学習に取り組む意識を高めていく。
- ・家庭での読書を推奨し、読書も家庭学習の 1 つとして位置付ける。週末においても、読書に取り組むよう声かけを行う。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	66.5	60	44.1	61
	(1.02)	(0.88)	(0.88)	(1.0)
R 5 正答率の全国比		0.89		0.97

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 「国語」「算数」とともに全国を下回ったが、「算数」は県と同等であった。
- 「国語」は平均正答率が県・全国を大きく下回り、「話すこと・聞くこと」領域に課題がある。
- 「国語」では、正答率が低かったのは「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」という記述式設問で、無回答率が高かった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が県・全国と比較して低く、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。
- 「算数」は「図形」と「変化と関係」領域に課題があり、三角形の意味や性質の理解と、底辺と面積の関係を基に面積の大小について説明する設問で、県・全国を下回っていた。
- 平日、土日ともに家庭学習の時間が 1 時間以上と回答している割合が、県・全国と比較して高い。
- 国語の授業で、「立場や考えの違いを意識して話し合い、自分の考えをまとめているか」の設問に 92% が肯定的に回答しているが、より効果的な指導方法を工夫する必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 各教科とも、正答数に個人差が見られたことから、個に応じた指導の工夫が必要である。
- 算数科では、校内研究の取組(ノートパワーアップ作戦)を中心に、算数用語・図・式を使って自分の考えをノートに書く指導を継続していく。また、友達の考えと比較し自分の考えを整理して書くような場の設定を行い、表現し分かりやすく伝える方法を身に付けさせるようにする。
- 既習事項とのつながりを持たせたり、振り返りをもとに次の学習につなげたりして、系統的な指導を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- サマースクール(8 月 22, 23 日)を開催し、夏休みの課題の補充指導を行う。
- 家庭学習強化週間を年 2 回(6 月, 11 月)設定し、家庭学習の定着を図るとともに、家庭の教育力の向上を目指す。また、自主学習を奨励し主体的に学習に取り組ませる。
- 家庭学習の内容を工夫し、条件作文等で書く力の向上を図り、前学年・前単元の復習を取り入れ知識・技能の定着を図る。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	64.7	61	48.0	64
	(0.99)	(0.89)	(0.96)	(1.05)
R5 正答率の全国比		0.90		1.02

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・5年時から6年時の推移を見ると、5年時との比較では国語は0.1ポイント下がっている。6年時の結果は県平均より0.11ポイント低く、全国平均を0.1ポイント下回る結果であった。
- ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように表現することができていない。
- ・漢字の書き取りができていない。
- ・自分の考えを書くことができていない。
- ・敬語を理解できていない。

【算数】

- ・5年時から6年時の推移をみると、5年時との比較では0.09ポイント上がっている。6年時の結果は県平均より0.05ポイント高く、全国平均を0.02ポイント上回った。
- ・高さが等しい三角形の面積の大小を比べるときに、底辺の長さに関係していることを理解し記述できていない。
- ・三角形の意味や性質を理解していない。
- ・百分率を理解していない。
- ・少数の加法や乗法ができていない。

【意識調査】

- ・友達関係に満足している児童が多い。
- ・地域の行事に参加している児童が多い。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童が少ない。
- ・土日平日と家庭でのメディアの使用率が高い。
- ・将来の夢や希望を持っている児童が全国や県平均より少ない。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけない」の課題に、「3どちらかといえば、当てはまらない」と認識している児童が5.9%である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・教師に実施したアンケートでは、ほとんどの教師が、めあてに即したまとめをする、ふりかえりを行うなど「授業づくりのステップ1・2・3」の流れを意識して授業を継続して行う。
- ・7月のアンケートでは、東川登小の「話し方名人」「聞き方名人」の観点である声の発表に適した声の大きさで発表する、相手に注目して話を聞くなどおおむねできている。しかし、学年が上がるにつれて、それらの観点を意識できていない割合が増える傾向にあるので引き続き指導を行う。
- ・教師は「話し方」「聞き方」の指導を強化する。
- ・ペア対話やグループ対話など、学年に適した話し合いを設定する。
- ・タブレットを用いて、児童が苦手としている部分の復習を行えるようにする。
- ・単元（題材）の目標を設定する。その目標を達成するために、ICTの活用、話し合い活動など、必要な学習活動を設定する。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・タブレットドリルやフォローアッププリントを用いて、学力の定着を図るようにする。
- ・実態（家庭学習の長さ、ゲームや動画視聴等の長さ）を保護者に伝えて、家庭の協力を得ながら生活習慣の向上を図る。→生活学習計画表などの作成、実施。
- ・語彙力、読解力をつけるために、読書活動を推進する。（学校図書館利用を取り入れた活動を増やす）

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	64.0 (0.98)	66.0 (0.97)	51.7 (1.03)	62.0 (1.02)
	R 5 正答率の全国比	0.98		0.99

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに全国平均・県平均とほぼ同等である。
- 国語、算数ともに好きな児童は多いが、算数については好きではないと回答している児童が半数近くいる。
- 国語の正答率について、「話すこと・聞くこと」は高いが、「書くこと」は著しく低い。また、記述式の正答率が低い。
- 算数の正答率について、「データの活用」は高いが、選択・記述式である「図形」の問題の正答率が著しく低い。
- 二教科ともに記述式以外の問題の無回答率が低く、できそうなことはあきらめずやり通すことはできる。
- 自分によいところがあると思えずにいる自己肯定感の低い児童がいる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 既習事項の定着を図るとともに、授業導入場面や一人調べの時間を工夫し、児童が自力解決の見通しをもって取り組むことができるようにする。
- 複数の条件を提示し、条件に合わせて記述する場面を設定して経験を積ませ、書くことへの抵抗感をなくしていく。
- 文章を読み取ったり、資料などの情報を整理したりする過去の調査問題を、単元内の学習過程に取り入れる。
- 自分の考え等を発表する場を多く設け、自信をつける機会にする。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習や生活場面において、条件に合わせたり、まとめたりする書く活動を取り入れ、日頃からスムーズに書くことができるようにする。
- 各教科において身に付けさせたい領域、内容の学習課題を設定し、家庭学習で繰り返し取り組ませることで習熟を図っていく。
- 児童が活躍できる場を保障し、それぞれの児童にチャレンジさせる出番を作るようにする。
- 学校生活の様々な場面で、前に立って発表する機会をつくり、やり遂げさせ、できたことを称賛し誉めて認められる場とし、自信をもたせていく。

1 児童の実態

(3) 学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	71.3	66.0	55.8	64.0
	(1.09)	(0.97)	(1.11)	(1.05)
R5 正答率の全国比		0.98		1.02

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(4) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

・正答率を見ると、国語は全国平均をやや下回っているものの、算数は、全国平均を上回っている。

【国語】

・特に成果が見られたのは、「思考・判断・表現力」における「話すこと・聞くこと」や「読むこと」では、全国平均をやや上回っている。その中でも、「資料から理解したことをもとに自分の考えをまとめる」問題によく取り組んでいた。

・課題は、「知識及び技能」における「情報の扱い方に関する事項」で、全国平均を下回っている。

・与えられた情報の中から、条件を満たして書くことに難がある。

【算数】

・「図形」の領域において、四角形とその特徴の理解が定着していなかった。

・根拠を明確にして式に表すことにつまずきが見られる。

【意識調査】

・全国と比べてポイントが高かった項目は、「読書は好きか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」「将来の夢や目標を持っているか」などであった。一方で、「家で自分で計画を立てて勉強しているか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」「自分にはよいところがあると思うか」などの項目が低い結果となった。

2 改善に向けた具体的な取組

(2) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【授業改善の取組】

・「授業づくりステップ1・2・3」のステップ3を目指した授業づくりの継続を図る。その中で、チェックシートを活用しながら指導の改善に生かしていく。

・自分の考えをノートやワークシートに書く機会を積極的に設けていく。その際、授業に出てくるキーワードや図、式など多様な表現方法を活用できるようにする。

【国語】

・日頃の授業の中で、自分の考えを書くときに「理由や根拠を入れて」などの条件を提示する。

・学習のまとめやふりかえりで、キーワードや書き出しを与える。

【算数】

・具体物を用いたり、視覚的情報を提示したりして学習内容の理解につながる授業実践を図る。

・低学年のときから、式につながる数やキーワードに線を引いたり○で囲んだりして題意をとらえることを大切にする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【家庭学習の充実を図る】

・各学年で家庭学習の時間を設定したり学習内容の工夫を盛り込んだ課題などを準備したりする。

・「多読賞」や「読書マイスター」など明確な目標を掲げ、さらに読書活動の充実を図る。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	66.4	72.0	64.7	60.0
	(0.99)	(1.06)	(1.05)	(0.98)
R5 正答率の全国比		1.07		0.96

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・平均正答率は、すべての領域等で佐賀県平均や全国平均を上回っている。
- ・記述式問題は、県平均や全国平均より正答率が高い。
- しかしながら、無回答率も県平均や全国平均より高い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は、県と比較して 1%、全国と比較して 2.5% 下回っている。
- ・記述式問題は、4 問中 2 問で無回答率が 0% であった。
- ・領域別にみると、「数と計算」「図形」「データの活用」で、県および全国平均を下回っている。
- その要因として、図形の見方が限定的で頭の中でイメージができていない
図形の回転・変形ができない
図形の公式が身についていない児童も多い
補助線が必要な図形になると手がとまる
分配法則が苦手
資料から条件に合う情報を読み取ることができない

などが考えられる。

【意識調査】

- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童の割合は、85% をこえ、県や全国を上回っている。
- ・「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日の学習時間が 1 時間以上」と回答した児童の割合は、県や全国を大きく上回っている。
- ・「新聞を毎日読んでいる」児童は 0 人で、9 割弱の児童が「ほとんどまたは全く読まない」と回答している。
- ・国語の解答を文章で書く問題については 8 割以上、算数の言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題については 7 割程度の児童が「すべての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した」と回答している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「授業づくりステップ 1 2 3」のステップ 3 を目指した授業づくりをし、定期的にチェックシートで振り返りをするを継続し、授業改善について意識の継続を図る。
- ・週末の宿題などで文章問題に取り組みせたり、授業内容と関連した読書活動の充実を図ったりすることを継続することで、「読むこと」への興味・関心が向上するようにしていく。
- ・日頃の授業の中で、キーワードや文字数などの条件を与えて自分の考えを書く機会を意識して設けることで、条件に合った文章を書くことができるようにしていく。
- ・問われていることやキーワード、大事なところに着目できるように、問題に書き込ませる指導を行い、問いに正しく答える力がつくようにしていく。
- ・国語の学習と関連した読書活動にさらに力を入れていく。
- ・算数の問題については、間違いのやり直しの時間を十分確保し、基礎的な内容を確認するとともに、内容の理解を定着させていく。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

【学びの土台づくり】

児童の発達段階に合わせた「西っこカード」を全学年で活用し、基本的生活習慣づくりに取り組んでいる。その中の「生活習慣」に関する項目は、児童一人一人の実態に合わせて変更し、生活習慣の見直しを図っていく。また、学習において大切な「読むこと・書くこと」の力を付けるために「音読」や「日記」の宿題に毎日取り組ませる。「西っこカード」は、毎日保護者に点検してもらうようにし、家庭との連携を図る。

家庭学習で自主学習を奨励し、児童の学ぶ意欲の向上や既習内容の習得を目指す。

【教員相互の学び合いの充実】

TT授業や少人数授業を行うことで、教員同士が指導法や教材研究について学び合ったり、授業公開を参観して学んだことを共有したりすることで、指導力向上を図っていく。
 タブレットの活用も含め、校内研修の時間をはじめ、学年あるいは学年グループで情報交換をしながら、効果的な活用方法を追求していく。

令和5年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立北方小学校

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

H30 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	62.2	71	43.9	59
	(0.95)	(1.04)	(0.88)	(0.97)
R5 正答率の全国比		1.06		0.94

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語は、県または全国平均を上回っている。算数は、県または全国平均を下回っている。
- 【国語について】
- ・今年度は、「書く」ことの正答率が高く、どの設問でも県または全国平均を上回っている。
 - ・「資料の説明としてふさわしい内容を選択する」という設問における正答率が、県または全国平均を下回っている。
- 【算数について】
- ・県や全国平均を下回ってはいるが、どの設問においても同等の正答率と言える。
 - ・「書く」ことの設問においては、「資料から分かっていることを選び、その理由を書く」という設問における正答率が、県または全国平均を下回っている。しかし、「資料の〇〇に着目して、分かることを書く」という設問においては、県または全国平均よりも正答率が高い。
- 【意識調査について】
- ・自分肯定感が高まってきている。
 - ・自分で計画を立てて学習することができている児童が少ない。
 - ・「朝食を毎日食べていますか」の設問では、県または全国平均より低い。
- 少しずつではあるが、「書く」力が付いてきている。今後も授業だけでなく、日常の活動においても、「書く」場を多く設けていく。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 自己の考えを形成するための授業実践
 今年度の校内研究のテーマである『自分の考えを形成し、主体的に伝え合う』部分に焦点を当てて取り組む。「①思考ツールを用いた思考力・表現力の育成」、「②ICT機器の効果的な活用方法についての研究」の2点を中心に据える。
- 基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践
 「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。授業の「めあて」から学んだことを「まとめる」という流れをしっかりと作る。また、「書く活動」を多く取り入れる。
- 主体的な学びを促す環境の整備
 デジタル教科書やプレゼンテーションソフト、動画などを使い、学習への興味・関心を高めていく。また、既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語などを掲示し、書いたり話したりする際の参考にさせる。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 朝の時間に、「花まるタイム」以外で、思考力を高めるための問題や思考ツールを効果的に用いる技能を身に付けさせる活動を取り入れる。特に、「書く」活動を意識した内容にする。
- 今年度も、昨年度から引き続き、「生活チェック週間」を設定する。保護者の協力を得ながら、時間ごとに何をしたのか記録させていく。年間数回、設定する。